

国際ロータリー第2660地区

吹田西ロータリークラブ ウィークリー 2012-2013

■創立 1980.6.12

事務所 ☎564-0051 吹田市豊津町9番40号 江坂東急ビル1F
☎(06) 6338-0832 FAX (06) 6338-0020
URL <http://www.suita-west-rc.org>

例会場 新大阪江坂東急イン
☎564-0051 吹田市豊津町9番6号 ☎(06) 6338-0109

例会日 毎月曜日 18:00~19:00
役員 会長：坂口道倫 幹事：阿部吉秀 会報委員長：西村元秀



4つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

第1486回例会 平成25年2月18日

卓話 「職業奉仕炉辺談話報告」 澁谷委員長
「続 私の職業」 毛利パスト会長
今週の歌「四つのテスト」

先週内容

会長挨拶 坂口会長

IMの講演は国際奉仕の今後のあり方について参考になりました。

岩手・盛岡に、また、スリランカ・コロンボに訪問される会員の皆様、ありがとうございます。

出席規定の免除には2つあります。年齢が65歳以上でロータリー歴と年齢の合計が85年以上のとき。もう一つは、理事会の承認する条件と事情による欠席の場合、理事会は正当かつ十分な理由による会員の欠席を認める権限を持つ。このような出席規定の適用の免除は最長12ヶ月までとする。矢倉会員のH25年4月1日よりH26年3月31日まで出席規定の適用を免除します。



米山奨学生 奨学金授与



地区委員委嘱状 木田会員

世界理解月間

次週 第1487回 例会予告 平成25年2月25日

卓話 「ノンベジ・セイアンの予防歯科教室」 青木会員
Weekly No. 1486は西村委員長が担当しました。
Weekly No. 1487は吉田委員が担当の予定です。
(本日の原稿をお渡し下さい)



岩手 盛岡西RC訪問 結団式



スリランカ CCRC訪問 結団式

幹事報告 阿部幹事

- 財団・米山寄付の領収証が届きましたのでBOXへお配りしました。申告用にご使用下さい。
- クマヒラ製作所から「抜萃のつづり、その72」をいただきましたのでお配りします。
- 月信2月号にガバナー杯野球大会の記事が掲載されています。回覧致しますので、ご覧下さい。
- ロータリーの友2月号が届きましたのでお配りします。

ゲスト 榎原委員長

米山奨学生 楊焜凱 様

出席報告 郷上委員長

- 会員数 48名 ● 来客 1名
- 出席会員数 39名 ● 本日の出席率 86.67%
- 1月7日の出席率(メーキャップを含む) 100%

誕生御祝 - 2月



結婚御祝 - 2月

昭和49年 2月4日 村井会員ご夫妻
 昭和57年 2月28日 岡 会員ご夫妻
 以上2組

社会奉仕委員会 橋本(芳)委員長



2月1日(金)は吹田西RC担当のクリーンデーに参加ありがとうございました。青木、山岡、阪本、本田、河邊、榎原、澁谷、阿部、瀧川、紙谷、橋本(徹)、橋本(芳)各会員、そして、江坂東急インの細川さんの13名です。

2月28日(木)は献血活動です。場所は(株)ビケンテクノさんにて ①10:00~11:50 ②13:00~16:00に行います。多くの方の参加お待ちしております。

ニコニコ箱 河邊副SAA

- ◆西村会員
ようやく復帰できました。健康に気を付けて頑張ります。今後ともよろしくお願ひします。
- ◆木田会員
インターシティミーティングすばらしかったです。
- ◆澁谷会員
IM欠席のおわびです。
- ◆坂口会員
急に歯が痛くなり青木歯科に行っています。青木先生ありがとうございます。
- ◆本田会員
昨日は節分、豆蒔きはしましたか?自分自身に。

本日のニコニコ箱	22,000円
累計のニコニコ箱	807,591円

卓 話

「私の闘病生活」 仲辻パスト会長

昭和25年6月中旬梅雨の最中、医師が母に対し、私の容態が後一週間と告げたそうです。当時私は21才。一週間過ぎても亡くならず83才の本年まで生きてこれました。顧みると肺結核にかかった為に、今の自分があると考えています。



肺結核にかかったのが昭和23年8月初旬で、完治したと思われるのが昭和33年です。10年間の療養生活となります。最初の3年間は絶対安静の生活が続き、布団を背に天井を見つめ身の世話を全て母に委ねるという生活でした。罹患の原因は、戦時中の勤労働員生活、そして食糧難に加えて姉が昭和22年8月末、結核で亡くなり、それが伝染したものと考えています。

戦後の社会状況並びに経済生活については、昭和21年2月、幣原内閣、金融緊急措置令、預金封鎖、新円切替、インフレ抑制
 昭和21年10月、自作農特別措置法令、不在地主の全耕作地買上げ、小作人に売却
 昭和23年12月、吉田内閣 GHQ財政顧問ドッジ氏の指令による緊急財政均衡予算の作成、税制大改革が行われた。

学制改革では、旧制が小学校6年、中学校5年、高等学校3年、大学3年が、新制は小学校6年、中学校3年、高等学校3年、大学4年に変更された。

発病当時、私は関西大学法学部1年次に在籍していたが、肺結核罹患のため、9月から休学し、3年間の休学の後、退学の手続きをとり、療養生活に入る。
 病気の進行については、昭和23年9月、肺炎を併発したうえ、昭和24年2月に又肺炎にかかり、このため結核は進行し、昭和25年2月、又もや肺炎となった。結核のうえに肺炎併発ということで、病状は最高に悪化して、昭和25年6月には38度を越す高熱が続き、遂に医師は母に最後の覚悟をするように宣告したものとされます。

この医師が最後の手段としての薬物療法パスの服用を勧め、これを服用したところ38度の熱が10日あまりで下がり、殆ど平熱となった。平熱になれば食欲が旺盛となり、めきめき回復し、数年にして通常の生活に戻ることが出来た。
 この間の病状、療養方法、精神的な悩み等については、お話を詳細に述べさせていただいたので割愛します。

私が10年にも及ぶ療養生活を通じて行ったこと、又、得た経験というのは盛果は急ぐものではない。成果に至る過程も大切なのだということです。恩師の引用された和歌に「この秋は風か嵐か知らねども今日一日の田の草をとる」というもので、英語では Slow but Steadyがこの和歌に一脈通ずるものがあり、座右の銘にしております。